

野田市の発展に

交通網の整備不可欠

定例県議会一般質問

野田市特集

木名瀬捷司（きなせ・しゅうじ）県議は千葉県、そしてふるさと野田市の発展のために全力を挙げて政治活動に取り組んでいます。9月県議会では登壇して一般質問を行い、野田市の東武野田線立体交差事業や道路整備について県担当者に質しました。また、乗降客の増加に伴って梅郷駅周辺の犯罪が増加傾向にあるとして、現在、工業団地内にある南部交番の梅郷駅近くへの移設を要望しました。木名瀬県議の質疑と県担当者の答弁を特集します。



9月県議会一般質問で県の施策を質す木名瀬捷司県議

東武野田線連続立体交差事業 平成29年度高架完成を

木名瀬議員 私の地元・野田市における交通網は、鉄道として東武野田線があり、また道路網としては、南北に走る国道16号を骨格として、県道結城野田線や我孫子関宿線が走り、また東西には県道境杉戸線やつくば野田線が、隣接する埼玉県及び茨城県を連絡している。経済活動や市民生活を支えている、こうした交通網の整備は、市内の均衡ある発展の上でも欠かせないものであり、その一層の促進を図ることが大変重要であると考えている。

そこでまず初めに、東武野田線連続立体交差事業についてうかがう。その進捗状況と今後の見通しはどうか。県土整備部長 県では、野田市における市街地の一体的整備や交通の円滑化を図るため、東武野田線の「清水公園駅」から「梅郷駅」の間2・9キロメートルについて、連続立体交差事業を行っているところです。

平成29年度高架完成に向けて進めていただきたい。我孫子関宿線野田市木間ヶ瀬地先の幅広工事の進捗要望

現在運行している路線を移設する仮線工事については、平成25年6月に清水公園駅側の0・4キロメートルが完成し、すでに仮線運行をしております。今年度は、野田市駅から梅郷駅側の1・5キロメートルについても仮線工事を完成させ、去る9月28日から仮線運行を開始したところであります。また、清水公園駅側については、昨年度から着手している高架橋本体の下部工事を引き続き進めてまいります。今後とも関係者の協力を得ながら、早期完成を目指し、事業の推進に努めてまいります。

木名瀬議員 残る1キロメートルの仮線を完成させ、早期に全体的な工事に入るように、また、今回の工事は高額なため、財政問題もあると思うが、是非、

宿江戸町地先から関宿橋に至る2・3キロメートル間の整備を進めているところであり、このうち、関宿台町付近の1・1キロメートルについて、既に供用しているところです。現在、関宿台町地先から関宿橋までの0・8キロメートル区間のバイパス部分について、優先して整備を進めており、用地取得は面積ベースで約6割となっております。

木名瀬議員 県道我孫子関宿線は、東葛地域を南北に結び国道16号を補完する重要な路線であり、円滑な交通と通学児童を含む歩行者の安全を確保するため、野田市木間ヶ瀬地先において、延長約2キロメートルの現道拡幅を進めているところです。これまでに、0・5キロメートルについて供用を開始しており、今年度は、木間ヶ瀬小学校付近の0・3キロメートルについて、年度内の完成を目指し、拡幅工事を進めてまいります。

木名瀬議員 県道境杉戸線の整備状況と今後の見通しはどうか。県土整備部長 県道境杉戸線の整備状況と今後の見通しはどうか。県道境杉戸線については、野田市関

木名瀬議員 県道越谷野田線越谷野田橋の4車線化について、早期に計画の具体化が図られるよう要望いたします。

梅郷駅周辺の防犯強化を

東武野田線

南部交番の移設要望



議場の自席で再質問を行う本名瀬捷司県議

など、地域住民による自主的な活動にはおのずと限界があり、梅郷駅周辺におけ

る警察機能の強化が喫緊の課題になっている。

田警察署南部交番を梅郷駅東口に移設することはできないか。

番は南部工業団地の隣接地にあり、梅郷駅からは距離があるため、地域の自治会連合会や小中学校PTAなどから、梅郷駅東口への移設が強く要望されている。

そこだろうか、梅郷駅東口への移設が強く要望されている。

その建て替えについては、厳しい財政事情もあり、年間数か所程度にとどまっています。

このことから、県下全体の施設の整備状況を勘案の上、移設に向けた前向きな検討を進めてまいりたいと考えております。

警察本部長 要望のある野田警察署南部交番につきましては、最寄りの東武野田線梅郷駅から約600メートル離れた南部工業団地の隣接地にあり、交番利用者の利便性等を考慮した場合、県警としても梅郷駅周辺への移設の必要性は高いものと考えております。

他方、県下に487か所ある交番・駐在所のうち、施設の耐用年数を超えるものが、150カ所以上存在しております。

また、政令市・中核市を除く県所管の市町村では、719クラブ、登録児童は2万8210人で、待機児童は395人となっています。

本名瀬議員 県は、放課後児童クラブの待機児童の解消に向けて、どのように取り組んでいるのか。

健康福祉部長 県では、市町村等が行う放課後児童クラブの整備に対し助成して

クラブの需要は増加しているが、県内の放課後児童クラブの設置状況及び待機児童数はどうか。

健康福祉部長 平成26年5月1日現在の放課後児童クラブの施設数、登録児童数及び待機児童の状況ですが、政令市・中核市を含む県全体で、施設数976クラブ、登録児童は4万2060人、待機児童は1152人となっています。

また、政令市・中核市を除く県所管の市町村では、719クラブ、登録児童は2万8210人で、待機児童は395人となっています。

本名瀬議員 県は、放課後児童クラブの待機児童の解消に向けて、どのように取り組んでいるのか。

健康福祉部長 県では、市町村等が行う放課後児童クラブの整備に対し助成して

本名瀬捷司県議プロフィール

○経歴○

- 昭和17年1月 野田市生まれ
- 平成6年5月 野田市議選に初当選
連続2期当選
県議選に初当選
現在3期目
- 平成15年4月 総合企画水道常任委員会委員長
商工労働企業常任委員会委員長
予算委員会副委員長
- 平成18年7月
- 平成20年7月
- 平成23年12月

○現職○

- 県議会 総務防災常任委員会委員
- 野田リトルシニア野球協会会長

福島原発事故で県未賠償について質問状

本名瀬議員 東日本大震災による原発事故がもたらした千葉県への影響は大変大きいものであり、県や市町村などの行政は、除染を初め様々な放射線物質対策を講じてきた。

県は、東京電力株式会社に対し、福島第一原子力発電所の事故によって県が被った損害の賠償について、質問状を提出したとのことだが、協議の状況はどうなっているのか。

知事 県では、福島第一原子力発電所の事故に伴って、様々な放射性物質対策を講じ、現在までに、平成24年度までに要した費用として12億4000万円を東京電力株式会社提示しています。が、その内、賠償を受けたのは、平成23年度までの費用の一部である9億7000万円にとどまっています。

既に協議開始から相当の期間が経過している項目もあることから、協議の進展を図るため、去る9月12日、賠償を受けていない部分についての県の考えを改めて整理し、同社に回答を求める質問状を、同様の状況にある市町村の質問状とともに提出したところです。

本名瀬議員 国の原子力損害賠償紛争解決センターへの和解の仲介申立ても含め、県として、今後、どのように対応する考えなのか。

知事 県の質問状に対する東京電力株式会社の回答期限を今月15日としていることから、まずは、回答の内容を十分に精査する必要があると思っています。

その上で、どのような手段をとることが効果的であるかなど、対応について検討してまいりたいと考えています。